

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 25 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23310174

研究課題名(和文) 近現代インドにおける食文化とアイデンティティに関する複合的研究

研究課題名(英文) Food and Identity in Modern India

研究代表者

井坂 理穂 (ISAKA, Riho)

東京大学・総合文化研究科・准教授

研究者番号：70272490

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近現代インドにおける食文化をめぐる諸変化が、地域、宗教、カースト、ジェンダー、階級などにもとづくアイデンティティや、インドというネーション概念の構築・再構築過程とどのように関わりあっているのかを、文献資料や現地調査をもとに、具体的な事例に焦点を当てながら明らかにした。本研究の成果は国内外の学会で報告され、これらを契機として、日本・インド両国の研究者により、南アジアにおける食と身体をめぐる認識を検討するための新たな共同研究が発足した。また、論文集をとりまとめる作業が現在進行している。この他、インドの食文化史に関する連載を一般誌に寄稿するなど、広範な読者に向けた成果の発信も行っている。

研究成果の概要(英文)：This project examined various ideas on what/how to eat among different groups of people in colonial and post-colonial India and discussed how these ideas reflected the ways in which these people identified themselves in terms of nation, region, religion, caste, gender and class. Each member of the project collected primary sources in India, Pakistan and UK through archival research, which include cookbooks, private papers, memoirs and statistics and also conducted interviews in different parts of India. The outcome of this project was presented in conferences in Japan, UK and India. A new joint research project was also created in this process on the ideas of food and body in South Asia by several Japanese and Indian scholars. The papers presented in these conferences are now revised to be published as a edited volume in near future. The project also tried to present its outcome to a wide range of people through contribution of essays to non-academic journals.

研究分野：南アジア近現代史

キーワード：インド 食文化 アイデンティティ 近現代 ネーション 都市 国際研究者交流

1. 研究開始当初の背景

(1) インドにおける食文化史の諸側面については、本研究の開始以前からも歴史学、社会学、経済学、文化人類学、文学その他の分野の研究者たちによって、異なる関心から取り上げられてきた。しかしながら、それらの大部分は、インド史の特定の時代における食文化を扱っており、通時的な視点から、食や食にまつわる慣習の変化を追ったり、それらの変化が在地社会においてもっていた意味合いを、実証的に検討したものは少なかった。

(2) 既存の研究においては、インドの食文化が地域や宗教コミュニティごとに説明されることが多く、あたかもこれらの区分によって食習慣や料理法が明確に分かれるかのような印象を与えていた。しかしその一方で、すでに近現代インドを対象とした歴史学や社会学においては、地域・宗教・カーストなどの社会集団の区分が実際にはきわめて流動的であり、歴史的に構築・再構築されてきたことが明らかにされてきた。この点を踏まえ、食文化と社会集団との対応関係を前提とせず、多様な社会集団の構築・再構築過程と食文化との関わり合いを、歴史的に検討する研究が必要であると考えられた。

2. 研究の目的

本研究では、近現代インドにおける食文化の諸変化に焦点を当てながら、これらの変化が地域、宗教、カースト、ジェンダー、階級などにもとづくアイデンティティや、インドというネーション概念の構築、再構築過程とどのように関わっていたのかを明らかにすることを目的としていた。具体的には、19世紀から現在までのインド西部・北部を中心に、文献資料や参与観察、聞き取り調査などを通じて、多様な社会集団に属する人々が表す「あるべき」食文化についての認識や、それらの変化を検討した。また、各集団の内部や集団間で起きた食文化のあり方をめぐる論争・事件を検討し、それらのなか、人々の多様なアイデンティティがどのように表されているのかを考察した。

3. 研究の方法

(1) 研究代表者、研究分担者、連携研究者、研究協力者が、それぞれインドやパキスタンにおいて自らの研究対象とする地域を訪れ、資料収集を行った。現代をテーマとした研究では、食の変化に関して家庭や教育機関で聞き取り調査や参与観察を行ったり、食品を扱う業界関係者への聞き取り調査を行った。植民地期を扱う研究においては、イギリスやインドの文書館、図書館において、当時の料理本や、私文書や回想録などにみられる食に関する記述を収集した。とりわけロンドンのブリティッシュ・ライブラリーには、英語文献ばかりでなく、植民地期に集められたインドの在地諸語文献も幅広く保管されており、19

世紀後半にインドで出版された料理本なども閲覧することができた。

(2) 本研究は、各メンバーが異なる地域や事例を取り上げ、それらを比較検討することで、近現代インドにおける食文化の変化をより網羅的、多角的にとらえることを目指した。そのため、本研究では定期的に研究会を開催し、メンバー間での活発な意見・情報交換を心がけた。また、プロジェクト外部からも他の地域や時代について、類似のテーマで研究を行っている研究者たちを招き、地域横断的なつながりを考察するとともに、比較の視点からインド社会の特徴を検討した。さらに、現地調査や国際ワークショップを通じて、インド在住の食に関するテーマを扱っている研究者たちとも積極的に交流し、意見・情報交換を行った。

4. 研究成果

(1) 近現代インドの食文化の変化と、同時代における様々なアイデンティティの構築・再構築過程との関わり合いについて、具体的な事例にもとづき、いくつかの重要な観点を提示することができた。たとえば植民地期の社会変動のなかで、食や食に関する慣習を変わりつつある環境にいかに関わり合っていくのか、公共の場においても各家庭においても重要な課題となっていたことや、食をめぐる「自分たち」の「あるべき」慣習を規定したり特定の社会集団内部で共有しようとする動きがみられる一方で、場面や状況により規範を使い分けたり、新たな解釈を加えるような柔軟さや流動性があったことが実証的に示された。また、それぞれの社会集団内部で食をめぐる活発な議論、論争が展開されており、そこでは教育経験やジェンダーなどの諸要素と絡み合うかたちで見解の相違が存在したことや、社会変革やネーション像の構築を目指す動きのなかで食をめぐる議論が大きな役割を果たしていたことが明らかにされた。現代に関しては、経済自由化以降のインドにおける社会集団ごとの食材の消費行動や食習慣の変化を、彼らのアイデンティティの変化と絡めながら実証的に示すことができた。

今後は、これらの研究成果を、南アジア研究の諸分野と関連づけるだけでなく、近年、活発に展開されている世界各地の食文化史研究とつなげていくことで、地域間の関係や比較史の視点を組み込みながら、近現代の世界史を食という観点から再検討する試みへと発展させることを目指したい。

(2) 本研究の成果の一部は、イギリスで開催された食の歴史に関する国際会議(2013年7月、ロンドン)や、インドで開催されたワークショップ(2014年12月、デリー)などで報告され、海外の研究者たちからも高い評価を得た。これらの海外で発表された報告には、

19 世紀のウルドゥー文学作品にみられる食に関する記述を詳細に分析し、ムスリム知識人たちを取り巻く当時の社会変化や、そのなかでの彼らの自己認識の変化と関連づけた報告や、植民地期の自伝・回想録や料理書をもとに、インドのミドル・クラスの人々が、イギリスの食習慣と在地の食習慣との間で揺れ動きながら、自らの様々なアイデンティティのあり方と折り合わせつつ、食習慣を再構築していく過程を示した報告、グジャラート州の教育機関で行った聞き取り調査をもとに、若者たちの中での食の変化とその背景にある意識を検討した報告、などが含まれる。

また、インドにおけるワークショップを契機に、インドの研究者たちとの間で活発な学術交流がはじまり、これをもとにして 2016 年度から 2 年間の予定で南アジアの食と身体をめぐる認識に関する共同研究（学振・ICSSR による二国間交流事業）を行うことを予定している。

この他、国内においても定期的に研究会を開催し、異なる地域や方法論を扱う研究者たちが食とアイデンティティをテーマとして議論を交わす機会を設けた。研究会の多くはホームページやメーリングリストを通じて広く参加を呼びかけたことから、食品業界の関係者からの問い合わせや研究会への参加などもあり、彼らの実践的な立場からの視点も交えて、多角的な議論を行うことができた。

(3) 研究代表者、研究分担者、連携研究者、研究協力者のそれぞれは、論文やエッセーなどを個別に執筆、発表したほか、現在、成果報告として論文集をとりまとめる作業を行っている。この論文集は 2016 年度末までに編集作業を終える予定であり、できるだけ早い時期に刊行することを目指している。ここでは、歴史学、宗教学、社会学、文化人類学、文学などの異なる方法論にもとづき、近現代インドの食文化の多様な側面が、様々な社会集団への帰属意識や集団間の関係の変化と関連づけながら論じられ、まさに本研究の成果を総括する内容となっている。この他に、すでに学会で行われた研究報告で、本研究とは別に企画された論文集（英語）のなかでの刊行が予定されているものもある。

これらの刊行は、国内外の南アジア研究者はもとより、それ以外の地域に関して食とアイデンティティをテーマとした研究を行っている研究者たちとの間で、さらに活発な議論、学術交流を展開することを促すものと思われる。

(4) 本研究では、ホームページを作成して食に関するエッセーや文献案内を掲載したり、食をテーマとした雑誌 Vesta に寄稿するなどのかたちで、研究成果を広範な人々に向けて発信することを試みた。現在、Vesta 誌に連載中の「食からみるインド史 中世から現代

まで」では、食の歴史を通じてインドがどのような特色をもつ地域であるのかを示し、地域、宗教、カースト、ジェンダー、階級などにもとづく様々なアイデンティティとその変化が、食をめぐる変化とどのように関連しているのかを、地図や写真を利用しながら、わかりやすく説明している。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 11 件)

篠田隆、インド農村における家畜飼育と農業経営、商経論叢、査読無、51 巻 2 号、2016、17-37

<http://hdl.handle.net/10487/13551>

山根聡、19 世紀北インドにおけるウルドゥー語とイスラームの親和性、南アジアとイスラーム、査読無、7 号、2015、53-75

篠田隆、日帰り放牧の家畜構成と資源利用 インド・グジャラート州の事例を中心に、大東文化大学紀要・社会科学、査読無、53 号、2015、248-271

井坂理穂、植民地期インドにおけるイギリス人家庭と料理人、Odysseus：東京大学総合文化研究科地域文化研究専攻紀要、査読無、18 号、2013、31-50

<http://hdl.handle.net/2261/55866>

篠田隆、インド・グジャラート農村における農業経営と作物構成 調査村の事例を中心として、大東文化大学紀要・社会科学、査読無、51 号、2013、61-89

〔学会発表〕(計 20 件)

Riho ISAKA, Women and Medicine: India, Japan and the World in the 1880s, *SNU-INDAS Conference: Perspectives, Dialogues and Challenges: India, Japan and the Making of Modern Asia*, 2014/12/13, India Habitat Centre (New Delhi, India)

Riho ISAKA, Reconstructing Culinary Practices and Ideas of Modernity in Colonial India, *What do We Eat? Food and Identity in India*, 2014/12/12, Janki Devi Memorial College, University of Delhi (New Delhi, India)

So YAMANE, More Sophisticated, More Nostalgic and More Romantic: A Study of the Urdu Writings on Cuisine Culture under the British Raj, *What do We Eat? Food and Identity in India*, 2014/12/12, Janki Devi Memorial College, University of Delhi (New Delhi, India)

Takashi SHINODA, Food and Identity among the Students of Gujarat Vidyapith, *What do We Eat? Food and Identity in India*, 2014/12/12, Janki Devi Memorial College, University of Delhi (New Delhi, India)

山根聡、ウルドゥー語とイスラームの親

和性について、「南アジアとイスラーム」シンポジウム、2014/10/3、京都大学(京都府・京都市)

So YAMANE, Urdu Writings on Food, *Pakistani Studies in Japan*, 2014/2/20, Bahauddin Zakariya University (Multan, Pakistan)

Riho ISAKA, Reconstructing Culinary Practices in Colonial India: Cooks, Mem Sahibs and the Indian Middle Class, *82nd Anglo-American Conference of Historians: Food in History*, 2013/7/12, University of London (London, UK)

So YAMANE, A Study of the Sophisticated Terms in the Urdu Writings on Cuisine Culture under the British Raj, *82nd Anglo-American Conference of Historians: Food in History*, 2013/7/12, University of London (London, UK)

So YAMANE, Dual Trend of Urdu and Punjabi Prosody, *Pakistani Studies in Japan*, 2013/2/22, Lahore University of Management Sciences (Lahore, Pakistan)

山根聡、パンジャブの食文化について、シンポジウム・パーキスターン 2012、2012/12/8、日本大学文理学部(東京都・世田谷区)

井坂理穂、植民地期インドにおけるイギリス人家庭と料理人、日本南アジア学会第25回全国大会、2012/10/6、東京外国語大学府中キャンパス(東京都・府中市)

山根聡、ウルドゥー語と都市文化-食文化を通じた語彙の洗練とトポフィア、日本南アジア学会第25回全国大会、2012/10/6、東京外国語大学府中キャンパス(東京都・府中市)

篠田隆、インドにおける食料消費の動向と地域性、日本南アジア学会第25回全国大会、2012/10/6、東京外国語大学府中キャンパス(東京都・府中市)

山根聡、1920 - 30年代英領インドにおけるウルドゥー語出版とムスリム知識層の台頭、ワークショップ アジアのムスリムと近代 1920 ~ 30年代の出版物を資料として、2012/1/29、上智大学(東京都・千代田区)

Riho ISAKA, The Changing World of Books: Publishers and Booksellers in Post-colonial Gujarat, *INDAS International Conference: Media and Power in Contemporary South Asia*, 2011/12/17, 国立民族学博物館(大阪府・吹田市)

〔図書〕(計 6 件)

栗屋利江・井坂理穂・井上貴子(編)、東京大学出版会、現代インド5 周縁からの声、2015、297-318

篠田隆、日本評論社、インド農村の家畜経済長期変動分析 グジャラート州調査村の家畜飼養と農業経営、2015、392

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等
<http://indianfoodkaken.org/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井坂 理穂 (ISAKA, Riho)
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号: 70272490

(2) 研究分担者

山根 聡 (YAMANE, So)
大阪大学・大学院言語文化研究科・教授
研究者番号: 80283836

(3) 連携研究者

篠田 隆 (SHINODA, Takashi)
大東文化大学・国際関係学部・教授
研究者番号: 20187371

(4) 研究協力者

長谷川まゆ帆 (HASEGAWA, Mayuho)
東京大学・大学院総合文化研究科・教授

浜井祐三子 (HAMAI, Yumiko)
北海道大学・大学院国際広報メディア・観光学院・准教授

加納和雄 (KANO, Kazuo)
高野山大学・文学部・准教授